

2007年3月29日

【報道関係各位】

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役会長兼社長兼 CEO 福武 総一郎
(コード番号 9783 東証・大証第一部)

小学生の英語学習の実態と、保護者の意識

保護者の英語ニーズは高い。授業を週に1時間だけ増やせるなら「英語」が第1位

～ 「第1回小学校英語に関する基本調査(保護者調査)」結果速報 ～

株式会社ベネッセコーポレーション(代表取締役会長兼社長兼 CEO 福武 総一郎、本社：岡山市、以下ベネッセ)では、2006年9月～10月、小学生の保護者4,718名を対象に、小学生の英語学習の実態や、小学校英語に関する保護者の意識を把握するための調査を実施しました。

「第1回小学校英語に関する基本調査(保護者調査)」

1. 調査目的

小学校英語教育の実態および小学校英語に関する教員、保護者の意識を調査し多面的な実態把握を行う。

* 「教員調査」「保護者調査」を行っているが、今回はこの「保護者調査」部分の結果速報。

(「教員調査」の結果速報は2006年11月に公表)

2. 調査結果

主な調査結果は、以下のとおりです。

もし週に1時間だけ増やせるなら、どの授業時間がよいかをたずねたところ、**第1位は「英語」**で、25.4%の保護者が選択した。

小学校で英語教育を行うのに、**どの学年から始めるのがよいかをたずねたところ、「小学校1年生」がもっとも多く47.8%を占めた。**こうした結果は、**教員調査と同様の傾向であり、保護者も教員も共通して英語教育の必要性を感じている。**

一方、**保護者は、教える内容や指導者への不安も感じている。**「教える内容が、先生や学校によって違うこと」「外国人の先生の数が足りないこと」「指導する先生の英語力が足りないこと」が「不安」との回答は6割にのぼった。

また、**英語教育のニーズには地域差が見られる。**自分の子どもが小学生のうちに英語を学ぶなら、「学校と学校外の両方で学ぶのがよい」と考えている保護者は都市部で多い。

3. 結果より読み取れること

保護者の英語教育に対するニーズは高い。多くの保護者は、教員とも同様に、小学校での英語学習は早い段階から開始したほうがよいと考えている。また、週に1時間だけ授業を増やせるなら「英語」がよいとの回答が多い。その一方で、教える内容や指導者に対しては不安も感じており、ニーズには地域差も見られる。今後、保護者の英語教育ニーズの高さを考慮しつつ、小学校が担うべき役割を明確にし、小学生の英語学習を支える条件整備を行っていく必要があるだろう。

4. 調査概要

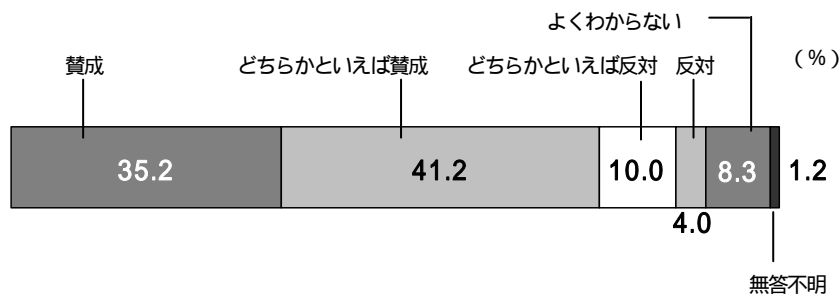
時期	2006年9月～10月
対象	小学1年生から小学6年生の子どもをもつ保護者 4,718名 *配布数5,847通 回収率80.7% (市区町村の人口規模および人口密度を考慮した有意抽出法。大都市・中都市・郡部の3地域区分を設定し、学校通しによる質問紙により実施)
企画・分析メンバー	金子真理子(東京学芸大学助教授)/直山木綿子(京都市総合教育センター指導主事)/矢野智子(京都市立西陣中央小学校教諭)/吉田研作(上智大学教授)/木村治生(Benesse教育研究開発センター教育調査室長)/沓澤糸(Benesse教育研究開発センター主任研究員)/朝永昌孝(Benesse教育研究開発センター研究員)/福本優美子(Benesse教育研究開発センター研究員)

5. 調査結果概要

(1) 小学校英語の必修化に対する賛否 (速報版 p4)

小学校で英語教育を必修にすることに「賛成」の保護者は76.4%、「反対」の保護者は14.0%。

Q. 小学校で英語教育を必修にすること(どの学校でも必ず英語を学ぶようにすること)について、賛成ですか、反対ですか。(n=4,718人)

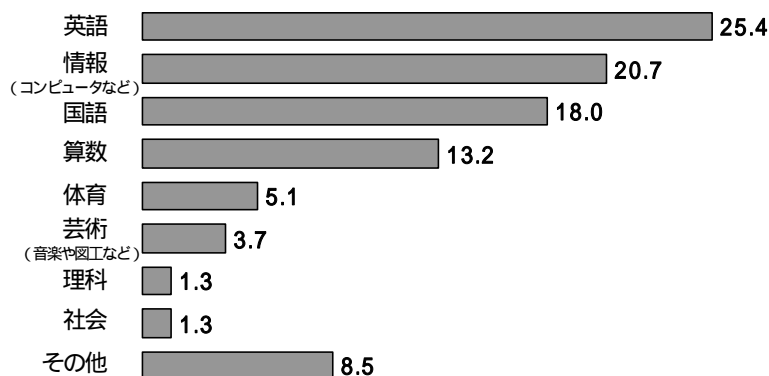


(2) 増やしてほしい授業時間 (速報版 p5)

もし週に1時間だけ増やせるなら、どの授業時間がよいかをたずねたところ、「英語」という回答が25.4%でトップ、次いで「情報」が20.7%だった。

Q. もし週に1時間だけ、授業の時間が増やせるとしたら、どの時間を増やしてほしいと思いますか。(n=4,718人)

「無答不明」は図から省略した。
(%)

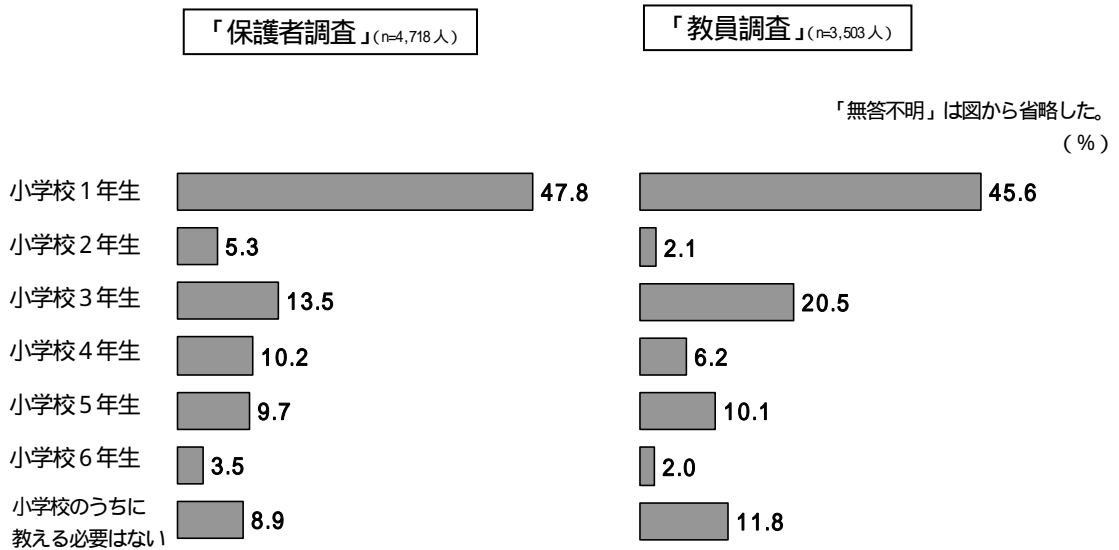


(3) 望ましい開始学年 (速報版 p5)

小学校で英語教育を行う場合、どの学年から開始するのがよいと思うかをたずねたところ、「小学校1年生」がもっとも多く、47.8%であった。これに、「小学校3年生」が13.5%で続く。「教える必要はない」は8.9%にとどまる。

なお、先に公表した「教員調査」(全国の公立小学校の教員(教務主任)対象)の結果をみると、教員でも「小学校1年生」という回答がもっとも多く(45.6%)、「教える必要はない」は11.8%にとどまっていた。保護者も教員も、こうした意識は共通しているようだ。

Q. 小学校で英語教育を行う場合、どの学年から開始するのがよいと思いますか。



(4) 英語教育に関する意識 (速報版 p12)

87.1%の保護者が「英語が話せるようになることは必要だ」と考え、75.0%の保護者が「英語はできるだけ早い時期から学ぶのがよい」と考えている。

先に公表した「教員調査」の結果でも、多くの教員が英語の必要性を感じており、こうした意識は共通している。

Q. 英語教育について、次のような意見がありますが、どのように考えますか。

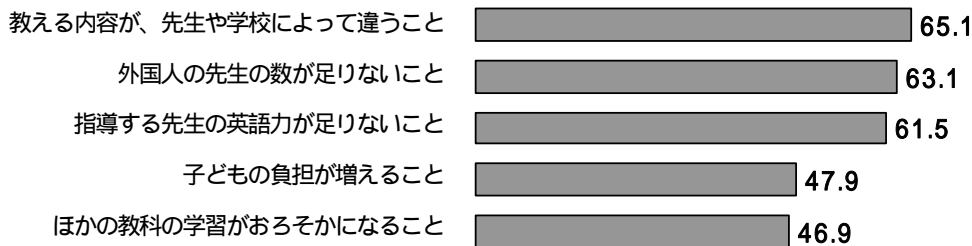
「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%	「保護者調査」 (n=4,718人)	「教員調査」 (n=3,503人)
今後の国際環境を考えると、英語が話せるようになることは必要だ	87.1	89.9
英語はできるだけ早い時期から学ぶのがよい	75.0	64.6

(5) 小学校英語への不安 (速報版 p7)

6割の保護者が、「教える内容が、先生や学校によって違うこと」「外国人の先生の数が足りないこと」「指導する先生の英語力が足りないこと」が「不安」と回答しており、教える内容や指導者への不安がみられる。

Q. 小学校英語について、次のようなことに不安を感じますか。(n=4,718人)

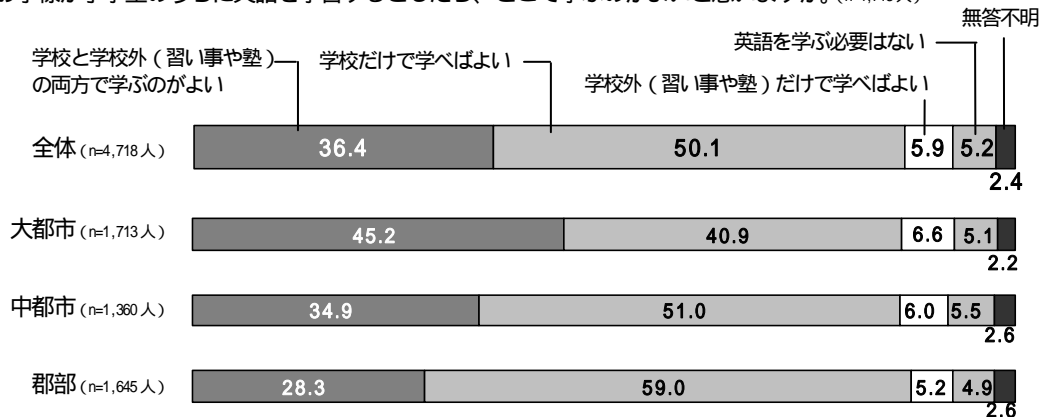
「とても不安」+「まあ不安」の%



(6) 英語学習の望ましい場 (速報版 p15)

ほぼ半数の保護者が、小学生のうちは英語を「学校だけで学ばばよい」と考えている。「学校と学校外の両方で学ぶのがよい」と考えているのが 36.4%で、これに続く。回答傾向には地域差が見られ、「学校と学校外の両方で学ぶのがよい」との回答は、郡部<中都市<大都市の順で多くなっている。

Q. お子様が小学生のうちに英語を学習するとしたら、どこで学ぶのがよいと思いますか。(n=4,718人)



ご参考

【 Benesse教育研究開発センターの活動 / Benesse教育情報サイトでの情報提供について 】

Benesse教育研究開発センター (<http://benesse.jp/berd/>)では、今後も、時代の変化に即したテーマで調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。

*「第1回小学校英語に関する基本調査(保護者調査)」「第1回小学校英語に関する基本調査(教員調査)」の詳細も、こちらのサイトでご確認いただけます。

「Benesse教育情報サイト」(<http://benesse.jp/>)

ベネッセが保有する教育関連の各種データを公開しています。